

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成24年度第2回高松市男女共同参画推進懇談会
開催日時	平成24年10月29日(月) 13時30分～15時16分
開催場所	市役所11階 114会議室
議 題	(1) たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）の平成23年度における実施状況について (2) たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）実績報告について (3) 2012高松市男女共同参画市民フェスティバルについて (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	時岡会長，蓮井副会長，綾田委員，伊藤委員，岩崎委員，國宗委員，滝川委員，野田委員，本田委員，三木委員，湯浅委員，渡邊委員
傍聴者	0人（定員10人）
担当課および連絡先	政策課男女共同参画推進室（839-2275）

会議経過および会議結果

- (1) たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）の平成23年度における実施状況について
- (2) たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）実績報告について  
たかまつ男女共同参画プラン（改訂版）の平成23年度における実施状況およびたかまつ男女共同参画プラン（改訂版）実績報告について、事務局から資料に基づき内容を説明した。
- (綾田委員)  
評価指標の目標値だが、最初に立てた目標は変更しないのか。毎年度見直し、前年度よりも良くしていくというのが普通だと思うが、目標値は固定なのか。
- (事務局)  
市では、総合計画を最上位の計画として、その下に、様々な計画があるが、目標値の設定の仕方として、最終年度に目指す数値を設定している。ただ、現実的には、毎年、実績を検証するとともに、対外的に公表している。  
目標値は、計画策定時点のものとして置き、前年度の実績を基に更なる上積みを目指していく。
- (時岡会長)  
毎年、実績を検証し、例えば、2年目に目標を達成していれば、目標値を新たに設定するということもあり得ると思うが、その都度、プランの改訂を行う必要があり、事実上、対応は難しいと思う。ただ、達成した項目については、前年度よりも上を目指すという形で進めている。

## 会議経過および会議結果

(渡邊委員)

女性教職員の管理職の割合という評価指標があるが、元々の教職員の女性比率が分からない。女性の校長の数が増えているということか。

(事務局)

全体的なことは把握できていないが、平成23年度の教職員の人事異動により、小学校では、校長、教頭新規採用者5名中3名、中学校では、3名中0名、幼稚園では、園長1名中1名が女性であった。

小学校、中学校の人事権については、香川県にあるので、関係課を通じて、香川県に協力依頼をするということになる。

(野田委員)

評価指標に民間シェルターの設置数の目標が1箇所となっているが、いつまで経っても民間シェルターが設置できていない。

民間が設置するのを待っているだけで、行政の指導もあまりないように思える。

現在、男女共同参画センターで、DV被害者のため、物資の寄付を募り、支援を行っているが、非常に需要が多い。県には、子ども女性相談センターがあるが、高松市として、シェルターをどうするつもりなのか。

(事務局)

市では、直接の施設ではないが、市有施設の一部をシェルターとして活用できるようにしている。

民間シェルターの整備については、問い合わせもあるとは聞いているが、具体には至っていない。

今後、民間シェルターが設置できるよう、関係機関が協力して情報提供を行うなど、努力していきたい。

(蓮井副会長)

行政が全てをししないと、税金を使わないと物ができないという時代ではなく、もう少し市民の力を使う、NPOの活動の中でこういったシェルターの設置や子育て支援、人権問題の相談会などを行い、そこに行政がサポートしていくような体制づくりが必要である。

そのような時代であるのに、NPOセンターを県も市も作らないことは、時代遅れで、例えば、高知県や愛媛県ではかなり進んでいて、様々なNPOが連携しながら活動している実態を見ると、香川県は遅れているという印象である。

シェルターも含めて民間がもっと自主的に活動できることが大事ではないか。

(野田委員)

香川県では行政におんぶに抱っこという県民意識があり、NPOがなかなか活動できない土壌もある。

そうであるならば、民間がシェルターを設置するのをただ待っているだけでなく、行政側から何かアクションを起こさなければいけない。

(時岡会長)

市のプランの中で民間シェルターを1箇所設置するという目標を置いているのであれば、市として何らかの働きかけを行わないといけない。実現に向けた働きかけを今まで以上に工夫する必要があるのではないか。

働きかけのやり方次第では、民間が動き出す状況になってきていると思うので、是非、どのようなところでどのような働きかけができるのか、市として、どのような動きができるのかをもう少し、検討してもらいたい。

また、合わせて、民間レベルでどのような動きがあるのかということについても把握することが必要ではないかと感じる。

(野田会長)

全部はできなくても、マンパワーだけとか、資金面だけとか、何かの形で協力できる団体はあると思うので、それらを組み合わせる仕組みがあれば良いと思う。

(時岡会長)

今、国や県で様々な助成金や補助事業があると思うが、民間が何かをしようとしたとき、何をどう使えるか分からない。ひょっとすれば、行政ができる一番のサポートは、そこかもしれない。例えば、まちづくりでも、地域の人には、助成金のことを知る機会がないので、そこに行政の人が入ることで、様々な助成金を取ってきて実現していくというように、こういう名目の助成金はこういうことに使えるとか、こういう助成金があるとか、そのような具体的な情報提供をお願いしたい。

民間シェルターの設置についても、直接、設置に関するサポートが難しいということであれば、違う形でサポートしていくことが必要である。

(蓮井委員)

現在、市側からプランを提案し、それを実施できるNPOが手を挙げ、うまく連携できる事業に補助が出るという形であると思うが、一昨年あたりに国から県に下りてきたお金で、NPO側からプランを提案し、選考委員会で選考されたプランに予算をつけるということをやっている。

市民が何をしたいかにお金をつけるという時代に来ていると思う。

(事務局)

従来は、市側からの問題提起が多かったが、今年度から、市以外、例えば、地域から課題を出してもらおうような方向にシフトしていくこと検討している。市民から課題を出してもらい、それを解決するにはどうすれば良いかを一緒にやって、知恵を借りながらやっていこうという方向にシフトすることを検討している。

(時岡会長)

男女共同参画の推進に関する平成23年度の決算額が予算額よりも少ないが、まだ達成度が足りないという評価なのに、予算額満額まで使われていないのはどういうことか。

(事務局)

各課の評価と決算額はリンクしていない。一つの事業を評価する際、予算の執行率という視点で評価している課もあれば、目標値を達成していても更なる取組が必要であると評価している課もあり、個々の部分については、はっきりした答えはない。

(時岡会長)

達成度と決算額が必ずしもリンクしていないと思うが、このような報告形式を取っているのであれば、ぜひ、達成度が改善していない事業が、予算よりも少ない決算額であった場合、もう少し予算を使って達成度を上げることはできなかったのかを検証してもらいたい。それが総括ということではないか。

(事務局)

今後、予算の執行状況などにも注視しながら、目標値の達成に向けた検討をしていきたい。

(時岡会長)

全事業となると大変なので、達成度評価が上がってない事業について、そのような視点で見ていただきたい。

(伊藤委員)

これらの資料では、どこが課題であるのか分かりにくい。477事業ある中で、達成度評価が低いものをピックアップした資料があれば分かりやすい。

(時岡会長)

達成度評価が低かった事業がどういう事業だったかを資料につけてもらい、それを検証する。その中には、どうすることもできなかった事業や予算をもっと投じれば良かった事業、他と連携すれば良かった事業など、色々と検証できると思うので、資料として必要である。

(事務局)

この様式での公表は今回で終わりなので、今後、新しいプランでの公表様式については、指摘されたことを踏まえて検討したい。

(野田委員)

主要プラン4に地域社会における男女用同参画の推進とあり、重点目標として女性リーダーを増やすとあるが、香川県でも高齢化が進み、地域が変化している。地域に住んでいる人の有様も変わってきている中で、単純に女性リーダーを増やすという問題だけではないと思う。

地域を支えていくため、例えば、高齢者の知恵を生かし、元気な高齢者が地域を支えられるような行政の指導が必要ではないか。そのような考えを持たないと社会が回っていない。女性リーダーは育っている。

(時岡会長)

具体的にどのような働きかけができ、どのような地域になれば理想的なのかの検討が必要である。

結局、評価指標としては、地域社会で男性優位になっている人が減少したとか、女性リーダーが増えたという指標で良いと思うが、それに向けて、市として、何ができるかの検討をしなければいけない。

(蓮井委員)

コミュニティの部会のトップの多くは男性で、女性が排除されている。様々なコミュニティの決定がおじいちゃんを中心に決まっている。女性はかかわっていないわけではないが、隅っこに追いやられている。そこでの女性の比率を上げていくような指導が必要だと思う。

(野田会長)

決して女性は隅っこに追いやられているのではなく、中心で活躍している。ただ、活躍している女性がどういう世代の人で、どのような活動しているかということが問題になる。

(滝川委員)

今では、コミュニティセンター長の1/3は女性である。私の地域はセンター長も主任も女性であり、そういうところは女性教室も活発である。

(野田委員)

今は、過渡期であり、後は、各地域の知恵くらべである。高齢者や若い人たちなど、様々な人がどのように知恵を寄せ合うかが地域の活性化につながる。

(時岡委員)

地域の在り方や地域と行政の在り方は過渡期であり、コミュニティごとに違いもあるが、どのような形が望ましいのかの検討が求められている。どのような形が理想的か、ある程度、その像を持っていないと対応は難しいのではないか。

その上で、行政として、どのような形でかかわっていけるかの検討を更に重ねて欲しい。

(局長)

今後、市政において地域コミュニティ協議会の役割はますます増えてくると思う。こういう制度を立ち上げて、何年か経つが、今は過渡期であり、うまくいっている地域、そうではない地域と、コミュニティ協議会によりかなり温度差がある。

コミュニティ協議会ごとにプランを作り、プランに基づき、地域の活性化や課題解決に取り組んでもらっているが、やはり人材の養成が必要だと

思っている。

各コミュニティ協議会の事務局の担う役割が重要であり、そこを強化しようと今年度やっている。まずは、地域がうまくいくよう、事務局がきちんとやって、協議会の役員さんに相談していこうという取組を進めている。

残念ながら会長となると、今は一人だが、事務局レベルでは女性が中心的役割を担っている。そういった事務局の体制を支援していくことと、市の職員が協働推進員として地域に入り、まずは、地域の一員としての役割、できればリーダー的役割を担っていくような研修も実施している。その両輪でやっていきたい。

また、これまで、事業ごとに補助をしていたが、今後は、教育など、大きな6、7つの分野に地域の裁量で地域のためになるよう使ってもらえるよう、そういう取組を進めていきたい。

(3) 2012 高松市男女共同参画市民フェスティバルについて

2012 高松市男女共同参画市民フェスティバルについて、事務局から内容を説明した。

(4) その他

DV被害者の支援のため、男女共同参画センターに設けられているパープルボックスについて、事務局から内容を紹介した。